

効果的なシティープロモーションの 推進について

(総務常任委員会・所管事務調査報告)

令和7年3月

高松市議会

高松市議会では、毎年度、常任委員会ごとに、委員会の所管事項のうちからテーマを設定し、閉会中継続調査（所管事務調査）を行っております。

そこで、総務常任委員会としては、令和6年度の調査テーマを「効果的なシティープロモーションの推進について」に決定し、鋭意、調査検討を重ねるとともに、香川大学生との意見交換会、及び2回にわたる高松第一高等学校生徒との意見交換会での意見等を踏まえ、このたび委員会として調査結果を取りまとめたので、以下、報告いたします。

1 現状及びテーマ選定の理由について

急速な人口減少、少子・超高齢化が進行する中、本市では、持続可能なまちづくりに向け、関係人口・移住者の拡大や子育て支援、企業誘致、文化芸術の振興など、様々な取組について情報発信を行い、市民の誇りと愛着——シビックプライドの醸成、そして、本市の認知度向上に向け、シティープロモーションを推進してきました。

こうした現状を受け、本市の魅力を再認識し、効果的に発信することで、市全体の価値や魅力を高め、市内外の幅広い世代から、本市に対する信頼や好感を獲得するため、また、本市に多くの人が集まり、元気で活力あふれる町となるため、東京事務所の設置も契機に、今後は、本市のシティープロモーションの方向性や目指す姿を市民と共有し、官民連携を図りながら、認知度向上やシビックプライドの醸成につなげていくことが不可欠であることから、議会として、効果的なシティープロモーションの推進について、調査研究する必要があるとして、令和6年6月26日の委員会で所管事務調査テーマに選定しました。

2 委員会等の開催状況及び活動内容について

(1) 総務常任委員会

① 令和6年8月29日 当局からの現状等の説明・質疑応答

〔当局の説明概要〕

本市では、これまで、オンライン高松ファンコミュニティの運営やインフルエンサーによる情報発信などに取り組んできた。しかしながら、関係課が事業ごとに独自で実施しており、市全体のブランド発信にはつながっていないといった課題があることから、本市のシティプロモーションを推進していくための目指すべき姿や方向性を市民や企業等に対して分かりやすく明確に示すため、高松市シティプロモーション推進ビジョンの策定に取り組んでいるところである。

今後は、市内外の人が抱く高松の魅力を互いに共有し、さらに高めていく取組が必要であると考えており、庁内横断的な連携を図るとともに、誰もが参画できる枠組みとして、新たなロゴマーク等の作成も進めていく。

② 令和6年 9月18日 論点整理・質疑応答・先進地視察の候補地についての意見交換

③ 令和6年11月27日 当局からのビジョンの骨子案についての説明・質疑応答

④ 令和7年 2月10日 先進地視察後の委員間討議

⑤ 令和7年 2月18日 取りまとめ案の確認

(2) 視 察

令和7年1月28日・29日 先進地視察

○千葉県松戸市・神奈川県川崎市、及び本市東京事務所

・地域の魅力を生かしたPR

- ・ シティプロモーションの進め方
- ・ 若年層の参画 等



28日 松戸市



29日 川崎市



29日 東京事務所

(3) 意見交換会

- ① 高松第一高等学校生徒との意見交換会
令和6年9月30日・10月28日
- ② 香川大学生との意見交換会
令和6年11月18日

3 委員会としての提言内容について

〔令和7年3月3日の委員長報告（閉会中継続調査終了）〕

(1) 地域の魅力を生かしたPRについて

- ① 写真や映像などの素材や情報を蓄積し、必要な時にすぐに取り出し、発信できるような仕組みづくりに努めること。
- ② 放送局との連携を行うなど、メディアを巻き込み、より発信力のある形で広くプロモーションを行うこと。
- ③ プロモーション動画を作成する際には、ショート動画も併せて作成す

るなど、若者にも響くような工夫を行うこと。

- ④ 市民を巻き込み、市民と連携した組織・チームをすることで、官民連携の推進に努めること。

(2) シティプロモーションの進め方について

- ① 本市の各事業に関し、担当課と広聴広報・シティプロモーション課が連携してPR手法を協議するよう努めること。
- ② 東京事務所やシティプロモーションプロデューサーと連携し、東京圏でのプロモーションの強化に努めること。
- ③ 地域にある魅力を引き出す機会を設け、市民参画のきっかけの創出に努めること。
- ④ 制定したロゴマークを浸透させていくため、市民も参加できる取組の実施に努めること。
- ⑤ シティプロモーションの機会を逃さないため、機動的かつ弾力的な予算措置を図ること。
- ⑥ 市内や東京圏だけでなく、中四国や関西圏へのシティプロモーションの強化にも努めること。
- ⑦ 市職員の広報スキルの向上に努め、シティプロモーションを継続して行っていくための体制強化を行うこと。

(3) 若年層の参画について

- ① 小学生のタブレット端末に副読本を入れるなど、幼少期から本市について理解を深める機会の創出に努めるとともに、子供たちが意見や思いを伝えやすくなるような環境の整備に努めること。
- ② 学生のUターン就職のきっかけとなるように大学との関係性の構築に努め、本市の魅力発信やPRを行うこと。

- ③ 学校と連携するなどして、各分野で精力的に取り組んでいる学生等を市を挙げて応援するとともに、若年期から本市とのつながりが持てるような環境整備に努めること。